

イノシシ対策 ～敵を知って対策を考える～

被害をなくすために、自分でやれることは何？

近畿中国四国農業研究センター 鳥獣害対策研究グループ 堂山宗一郎

集落の皆で勉強する！

集落の一部の人だけが、たくさん勉強して対策を行ってもなかなか被害は減りません。集落皆で勉強して、共通の知識や意識を持つことはとても重要です。特に、被害が軽減しているところでは、女性や子どもたちが積極的に対策に取り組んでいます。

餌付け要因をなくす！

イノシシなどの野生動物が田畑に出てくるようになった1番の理由は、そこに美味しいものがたくさんあり、良い餌場だと認識するようになったからです。そして、その大きな原因となっているのが、野生動物への「無意識の餌付け」です。「無意識の餌付け」が皆さんの農地や集落で行われていないか、見回ってみてください。

○ 収穫残さ

大きくなりすぎたり、熟しすぎたキュウリなどの野菜、少し腐って食べられなくなった野菜の残渣を畑の隅に捨てていませんか？このようなものを人間は食べませんが、動物にとっては美味しいご馳走です。これを食べて味を覚えた動物は、最終的には畑に侵入して作物を食べようになります。作物の味と畑の場所を覚えさせないためにも、収穫残渣はポイ捨てせず、生ゴミとして回収してもらったり、土の中に埋めるだけでも動物が近寄りづらくなります。



○ 放任果樹

誰も収穫しないカキやクリなどの果樹が家や畑の周りにありませんか？甘い果実を嫌いな動物はいません。地面に落ちた果実はイノシシやタヌキの、木になったままの果実はサルやクマの餌になってしまいます。さらに、これを食べた動物は果樹だけでなく、その集落全体を自分たちの餌場として認識するようになります。動物を集落へ呼び込まないために、人間が食べなくても果実は全部収穫するか、放棄果樹は思い切って伐採しましょう。



○ 残飯や生ゴミ

残飯や生ゴミを家のそばに捨てていません

か？生ゴミも動物にとってはご馳走です。特に、野生動物がこれに餌付いてしまうと民家周辺をうろつくようになり、農作物だけでなく、人身被害も引き起こしてしまうこととなります。残飯や生ゴミを野外に捨てるのは止めましょう。

隠れ場所をなくす！

被害にあった農地の近くには必ずといっていいほど、野生動物の隠れることのできる場所があります。このような場所の多くが耕作放棄地や竹ヤブであり、この中に身を隠した動物たちは、安心して人間の動きを観察できるため、どんどん人慣れが進むこととなります。このような場所が防護柵に隣接している場合、柵の弱点をじっくり探る時間を野生動物に与えることにもなり、柵を壊される可能性が高くなります。

耕作放棄地はクズが繁茂し、竹ヤブにはタケノコが沢山生えるため、動物たちの大好きなエサを提供する場所にもなります。

野生動物にとって最高の生活空間であり、被害を助長する耕作放棄地や竹ヤブを集落から減らしていくことも、被害対策として重要なことです。

獣害に強い畑にする！

○ 植える場所を考える

作付けレイアウトを少し変えるだけでも、畑を被害にあいづらくすることができます。野生動物にとって、その畑に侵入したいかどうかは、視覚によるもの（見た目の印象）を最初の判断材料にしています。例えば、1番外側の畝に野生動物の大好きなサツマイモやトマトが植えられている畑と、同じ場所にあまり好きではないピーマンやトウガラシが植えられている畑とでは、野生動物にとっての魅力（美味しいものの有無）が全然違います。



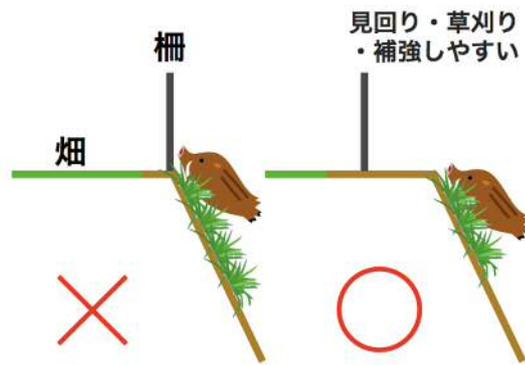
畑の外側に被害にあいづらい作物を、その内側に被害にあいやすい作物を植えるだけで、見た目の印象が変わり、獣害に強い畑になります。また、外側に植えた作物が目隠しとなることで、「畑の中が丸見え」になる電気柵やワイヤーメッシュ柵の弱点を補い、防除効果をさらに高めることとなります。

ただし、カボチャやスイカ、エンドウなど豆類のようにツルを伸ばす作物を、防護柵の近くに植付けると、柵にツルが絡んで柵外で実が生り、それが餌付けにつながったり、電気柵に触れることで漏電の原因になるなど獣害を助長することにもなるので、植える場所や栽培方法をしっかりと考えましょう。

○ 植える面積を考える

防護柵を設置する場合、農地と斜面や隣の土地との境界ぎりぎりに防護柵を設置してしまうと、柵の外側の草刈りや補修などの柵の管理が十分に行えないため、防護柵の効果が最大限に発揮できません。作付けの面積を若干減らしても、防護柵をしっかりと管理でき、野生動物が近づきにくい農地にすることで被害は減ります。

また、農地の面積が広すぎるため（例えば、1人で作業するにはしんどい広さの畑）、作物の管理も行き届かず、収穫できない作物を放置して餌付けになり、防護柵の設置や追い払いも中途半端になっている場所も見られます。このような場合、作物の管理が十分にでき、野生動物からも自分たちの手でしっかりと守れる規模や管理手法の農地にしていけば、被害も減り、結果として耕地面積が小さくなくても収量の増加につながります。



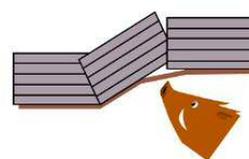
柵の管理をしやすい田畑にする

防護柵は効果的に設置する！

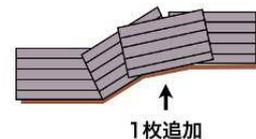
防護柵の設置は有効な対策ですが、動物の行動を理解して正しく設置しなければ、その効果は小さくなってしまいます。

○ 潜り込み対策を重視

イノシシは柵の下側（地面と柵の間）から潜り込んだり、柵の連結部分等にできる数センチの隙間をこじ開けて侵入することがほとんどです。柵を跳び越えて侵入することはあまりありません。イノシシに潜り込まれないように、柵の下側や連結部分に隙間を作らないように設置しましょう。また、地面と柵を固定するために杭等を打ち込んだり、柵の下側に補強材を取り付けることも有効な方法です。



× 隙間がある



○ 隙間には資材を追加して対応

柵の隙間を狙うのはイノシシだけではなくありません。サル、シカ、タヌキ等の他の野生動物も跳んだり登ったりするより、まずはこのような場所（隙間）を狙って侵入します。どの野生動物の対策でも隙間対策はとても重要です。

○ 電気柵の効果的な設置方法

・ 電線の高さ

電気柵の電線の高さは、確実にイノシシの鼻先を電線へ接触させるために、2段張りの場合、地面から20cm・40cmの高さに必ずしてください。イノシシに跳び越えられると思い、電線を少し高く（例えば30cm・60cm）張ってしまうと、電線と地面、電線と



電線の間が広く開くことになり、イノシシは鼻先を電線に接触させずに電気柵を通り抜けてしまいます。

・ 碍子（がいし）の向き

支柱に取り付けて電線を掛ける碍子の向きは、イノシシ側（＝作物の逆側）に向けてください。碍子がイノシシ側にある場合、イノシシがそれに触れると同時に掛けてある電線に触れる可能性が高くなり、感電しやすくなります。碍子が逆の場合、電線に触れる可能性が低くなり、支柱を押し倒して侵入してしまいます。

・ 設置場所

電気柵はアスファルトやコンクリート舗装された場所から離して、土の地面に設置してください。イノシシが電線に触れ、電気が身体を通り足先から地面に抜けていくことで電気ショックが起こる、というのが電気柵の仕組みです。イノシシの足先が舗装された場所にあると、電気が地面に抜けづらく、小さなショックしか発生しないために侵入されることがあります。イノシシの足先を確実に土の上に持つてくるためには、柵の外側 50cm が舗装のない土の地面の場所に設置すべきです。

この他にも基本的なことですが、電圧のチェックをこまめにする（3000 ボルト以上を維持することが最適）、漏電防止のために下草管理を行う必要があります。



忌避材に惑わされないように！

手間が掛からない対策としてニオイや音、光を使った忌避材や装置が使用されることがありますが、これらに被害を防止する効果はありません！！

野生動物が来なくなったように感じることもありますが、これは忌避材を嫌がったからではなく、野生動物が環境の変化に対して警戒しているだけなので、すぐに慣れてしまいます。

最近の流行で、オオカミやライオンなどの猛獣の尿や糞を忌避材としたり、イノシシが青色を認識できるため青色 LED ライトを利用した忌避装置も販売されていますが、これらも効果はまったくありません！

